

しかしながら、本症患者ではPTH負荷前に既に低磷血症、尿細管磷再吸収低下が存在しており、健常小児との単純な比較は困難である。

現在、われわれはカルシウム負荷により患児尿細管磷再吸収を正常化した状態でのPTHに対する反応性を検討中である。

骨粗鬆症に対する 1α OHVD₃ 投与の試みと その治療効果について

日本大学小児科 北川 照男
崎山 武志

はじめに

Fanconi syndrome では、血清 $1,25(\text{OH})_2 \text{VD}_3$ 値が低いが、 1α OHVD₃ を6例の本症に投与した結果、全例に生化学検査成績の改善と2例にクル病等の臨床所見の明らかな改善が認められた。これらの結果から Fanconi 症候群のクル病の成因に腎性酸血症及び低リン血症と共に腎でのVDの 1α -hydroxylation の障害が関与する可能性について報告して来た。また、特発性高Ca血症2例のvitD代謝物及びその成因について検査し、報告した。

本年度はネフローゼ症候群にステロイド剤の長期投与を行い、そのために生じたステロイド骨粗鬆症に対して 1α OHVD₃ を投与して、臨床的ならびに、骨X線像のマイクロデンスitomーターによる解析(MD法)、および腰椎骨萎縮度分類によってその効果を検討した。

ステロイドを長期に投与すると、小児において血清 $1,25(\text{OH})_2 \text{VD}_3$ が低下する事が報告されており、ステロイド骨粗鬆症は小児に生じ易いと報告されている。ステロイドのビタミンD代謝に及ぼす影響についてはなお不明の点が多く、骨粗鬆症の治療にビタミンDの使用を試みた報告は少ない。

方法

1)MD法：右手第Ⅱ中手骨の単純線像をアルミニウムスケールを標準として、マイクロデンスitomーターで解析した。中手骨の両骨端の間中点をスキャンし、骨巾をD、骨髄腔巾をd、 $\text{MCI}(\frac{D-d}{D})$ 、スキャンでの髄腔の最低骨密度の読みを Δ GSmin として表示した。

2)腰椎骨萎縮度分類による判定法：第3腰椎の側面の単純線像を慈大式骨萎縮度分類基準に従って分類した。

3)臨床検査測定：血清Ca, P, Al-P, PTH尿中Ca排泄量、その他一般検査を行った。

4) 1α OHVD₃ 0.05g/kg を予防的に6例に、進行している2例に投与した。

結 果

1)第3腰椎骨萎縮度とプレドニン投与量との関係は、総量が5gを越えない15例中3例のみがGrade 0で、総量が増加するに従いGradeが上昇する傾向を認めた。

2)骨巾Dは10例について測定を行い、男女共に対照と差を認めなかった。しかし骨髄腔巾dは男女共 Osteoporosis のある患者では上昇傾向を認めた。又MCIはステロイド長期投与で低値を示した。ΔGSminでは対照と有意の差は認めなかった。

3)進行している Osteoporosis 2例に対する 1α OHVD₃ 0.05g/kg の効果は、bone density の増加と痛みの軽減を認めた。また予防的に投与した6例について、5例に Osteoporosis の進行阻止が認められた。

結 論

ステロイド骨粗鬆症の進行阻止ならびに治療に 1α OHVD₃ の投与が有効と思われた。副作用として8例中2例に一過性の高Ca血症を認め慎重投与が望ましいと考えられた。

未熟児の低骨塩量・クル病に関する研究

千葉大学小児科	中島 博徳
	安田 敏行*
	猪股 弘明
	佐々木 望
	新美 仁男
君津中央病院小児科*	松清 史
	本宮 健
	神田 勝夫

目 的

未熟児がクル病になり易い事は周知の事実であるが、この原因については Vit. D の需要が多い、あるいは肝及び腎での Vit. D の活性化の未熟性にあると言われて来た。ところが未熟児の摂取する Ca 量が、子宮内発育胎児が母体から摂取する Ca 量と比し絶対的不足状態 (100mg/kg/日 vs 150mg/kg/日) である事に対する検討は少ない。本研究では、1)新生児の骨塩量の検討、2)未熟児の Ca 摂取を 200~240mg/kg/日 とした時の哺育成績について検討を行った。

方 法

1)出生体重 750~3800g の児18名に対して生後1週以内に手根骨レ線をアルミの wedge plate を入れてとり、手根骨第Ⅱ中手骨中点の Densitometry pattern を検討した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

Fanconi syndrome では、血清 $1,25(\text{OH})_2\text{VD}_3$ 値が低い¹が、 1 OHVD_3 を 6 例の本症に投与した結果、全例に生化学検査成績の改善と 2 例にクル病等の臨床所見の明らかな改善が認められた。これらの結果から Fanconi 症候群のクル病の成因に腎性酸血症及び低リン血症と共に腎での VD の 1-hydroxylation の障害が関与する可能性について報告して来た。また、特発性高 Ca 血症 2 例の vitD 代謝物及びその成因について検査し、報告した。

本年度はネフローゼ症候群にステロイド剤の長期投与を行い、そのために生じたステロイド骨粗鬆症に対して 1 OHVD_3 を投与して、臨床的ならびに、骨 X 線像のマイクロデンシトメーターによる解析 (MD 法)、および腰椎骨萎縮度分類によってその効果を検討した。

ステロイドを長期に投与すると、小児において血清 $1,25(\text{OH})_2\text{VD}_3$ が低下する事が報告されており、ステロイド骨粗鬆症は小児に生じ易いと報告されている。ステロイドのビタミン D 代謝に及ぼす影響についてはなお不明の点が多く、骨粗鬆症の治療にビタミン D の使用を試みた報告は少ない。